



# 陽明館(熱海) 国登録文化財に

## 昭和初期の別荘

国の文化審議会が十六日、柴山昌彦文部科学相に答申した登録有形文化財(建造物)に、県内からは熱海市桃山町の昭和初期建築の別荘「陽明館」の一件が盛り込まれた。県内にある国の登録有形文化財は二百三十五件となる。

(中谷秀樹)



国登録有形文化財に登録される「陽明館」＝熱海市桃山町で

### 審議会答申 和洋折衷の造りなど評価

陽明館は一九三九年、本州製紙の田辺武次社長が建てた別荘で、木造二階建て瓦ぶき建築面積約百五十七平方メートル。個人の取得を経て、五八年にMOA美術館などを運営する宗教法人世界救世教(熱海市桃山町)が取得した。築七十九年で二〇一七年に耐震工事を実施した建物は、良好な状態を保っている。現在は華道や茶道の発表の場などに用いられている。

山のふもとに立地し、一、二階とも相模灘を望む南側にそれぞれ和室二室が並ぶ。昭和初期の別荘の特色とされる和洋折衷の造りで、日光をふんだんに取り入れられる開放的な構造。丸太などを多用し、しゃれた数寄屋風の造りとなっている。同市教委の文化財担当者は「大正から昭和初期に盛んだった熱海の別荘建築として歴史的価値のある建物」と説明した。

世界救世教の岡田福蔵・広報委員会事務局長は「歴史的な文化遺産として顕彰されることを大変喜ばしく思う。保存に努めるとともに、多くの人に魅力と価値を感じてもらいたい」と話し、今後は一般公開を検討するという。